(認特)浜松 NPO ネットワークセンター
2025 年度　事業報告　（2025/4/1～2026/3/31）

１．民間非営利組織の発展を支える事業

（１）共同事務所運営：会議室・事務機器の貸し出し、事務局代行、交流コーナー

事務局代行は、フィリピノナガイサ、浜松環境ネットワーク、日本地域部活動文化部推進本部（POCCA）の３団体

（２）啓発

１）ネットワーク事業

① つながる仲間ミーティング【静岡県労働者福祉基金協会】

地域社会に幸福を感じられるような環境をつくるために NPO 活動を支援育成するというＮＰＯパートナー委員会に参加。年２回委員会開催。浜松市市民協働センターとともに西部地区社労協と関わることになっている。

② フードバンク

個人、企業、リサイクル実践機関とネットワークすることによって、孤立を防ぐための支え合いと地球環境を守るための資源循環の啓発活動として実施。

*外国人市民向け食料支援（HICE との協働）：のべ 6 家族へ合計 33.5Kg 提供。

*通年：食品寄贈受け入れ（55 件、285Kg）　食品提供（74 件、388Kg）

食品のやり取りを通しての連携：障害者支援センター、母子支援施設、企業（CSR の一環）、高齢者施設。

Web ページからの情報で問合せがコンスタントにあり、常連の寄付者も定着しているが、受け入れ重量が昨年のほぼ７割減。

③浜松こどもまんなかネットワーク会議

こども支援の 11 市民団体（みらい TALK、こどもﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ、こどもｱﾄﾞﾎﾞｶｼｰｾﾝﾀｰ浜松、ここみ、はままつ子育てﾈｯﾄﾜｰｸぴっぴ、子ども育ちﾚｽｷｭｰﾈｯﾄ、ｱｸﾃｨﾌﾞ、E-JAN、のあん、はままつﾁｬｲﾙﾄﾞﾗｲﾝ、N-Pocket）が連携し、交流しながら意見交換をし、市の関連委員会やパブコメの機会を使って浜松市への提言活動を行っている。今年度は、一部の団体をのぞき、こどもの権利侵害に対する救済・擁護・支援などを担う「こどもの権利擁護機関の設置」体制を整備するよう要望書をこども若者政策課に提出した。

２）ニュースレター年４回、ホームページ、ブログ（エヌポケット４回、ジョブコーチ７回）、Facebook（106 件・ﾌｫﾛﾜｰ 753 人）、インスタグラム（44 件・facebook 連動）、X（28 件）で発信

３）エヌポケットサロン

2025 年度開催なし

4）情報受発信

① 「浜松市 SDGs 推進プラットフォーム」会員

② 「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」パートナー会員

③ 静岡県西部 NPO 法人会・幹事会

④ “ふじのくに” ｉ（アイ）マップ支援団体登録

合同相談会参加（10/5 浜松会場）

⑤ 内閣官房　孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム協力会員

⑥ ふじのくに孤独・孤立対策プラットフォーム加入団体

⑦ 講師派遣　日本 NPO センター・ボランタリーネイバーズ講師　小林芽里(理事)

（ラジオ出演：11/6　K-MIX　モーニングラジラ）

（4）地域資源調査

Web サイト「はままつ市民の力きらきら BOX」　内容一部更新

（5）提言

1）行政機関等の各種委員会委員

島田江津子：西遠地区就業促進協議会委員

浜松市共同募金委員会委員

大野木里美：湖西市市民活動補助金審査委員

山野由香：西遠地区就業促進協議会委員

浜松市中エリア障がい者自立支援連絡会構成員

平井明樹夫（会員）：浜松市ユニバーサルデザイン審議会委員

2）パブリックコメント提出

2025 年度は N-Pocket として提出なし

2．多様な人々の社会参加を支える事業

（1）障害のある人

1）障害者職場定着支援事業（24 年目）【静岡県経済産業部】

① ジョブコーチ派遣

支援対象者 312（298+14）/300 人　派遣件数 3,729/3,600 人日

定着調査 118 人（継続 107、離職 8、雇用されない 3）

② ジョブコーチスーパーバイザーによる企業内ジョブコーチへのアドバイス支援

304/280 人日

③ ジョブコーチスキルアップ研修　10 回

ジョブコーチの資質の向上を図る講座を会場開催または Zoom で開催

参加者 54 人（のべ 438 人）

④ 障害者職場定着支援者養成研修

静岡県ジョブコーチ希望者および企業担当者、障害者施設などの支援者向け研修

日程：第 1 回　7/28・29・30・31・9/1　、第 2 回　8/20・21・22・26・27

場所：現地、Zoom によるオンラインおよびハイブリッド研修

受講者：第 1 回 88 人、第 2 回 49 人

修了証発行：第 1 回 69 人、第 2 回 42 人

実習希望者 4 人

⑤ 精神障害者職場環境アドバイザーの派遣

133/96 社　297/288 人日　定着支援人数 67/100 人

定着調査 25 人（継続 22、離職 3）

⑥ 関係機関との連携

オールしずおかベストコミュニティ　雇用サポーターとの連絡会（月 1 回）

2）静岡県ジョブコーチ派遣事業運営のための付随事業

① 拠点ミーティングおよび代表者会議　それぞれ月 1 回

② ブログ発信 7 回　https://blog.canpan.info/shizuokakenjobcoach/

③ 静岡県ジョブコーチ　アドバイザリーボード(2 回)

④ 関係団体とのネットワークづくり

・各地区の各種支援会議

3）障害者職業センタージョブコーチ事業（障害者職場適応援助者助成金事業）（23 年目）

【独立行政法人　高齢･障害･求職者雇用支援機構】

職業センターとの連携の下に実施する訪問型ジョブコーチ支援事業（ジョブコーチ 1 名）

4）障害者雇用コンサルタント

① 磐田市の病院での支援（中遠拠点）　【自主事業】

藤枝市の病院での支援（志太榛原拠点）【自主事業】

② 静岡県人事課【自主事業】

職員向け意識啓発研修および個別相談会

③静岡県静岡土木事務所での職場定着支援【自主事業】

④ 浜松医療センターでの支援【自主事業】

⑤自治体や企業を対象にした JC 利用契約促進のための訪問活動

（2）ICT による社会参加支援

1）障害者在宅 ICT 機器講習

① 西部地域（13 年＋9 年目）　【静岡県健康福祉部】

申込 22 名（視覚 14、肢体 4、聴覚 2、重複 1、精神 1）

講師 7 名、実施講座 258H

② 中部地域（5 年目）　【静岡県健康福祉部】

申込 2 名（視覚 2）　講師 2 名、実施講座 14H

③ 東部地域（5 年目）　【静岡県健康福祉部】

申込 3 名（肢体 1、聴覚 1）　講師 2 名、実施講座 16H

2）障害者福祉施設内での iPad 講座＋PC 講座（17 年目）【浜松市社会福祉事業団】

iPad12 回（のべ 88 名）＋PC 講座 24 回（のべ 101 名）　ボランティアのべ 47 名

3）バリアフリーオアシス（相談、在宅訪問）　【寄付】

4）デジタルサポーター育成講座【東海道シグマ】

（3）多文化・子ども

①自分の意見や思いを安心して他人に伝えられることは保障されており、そのことを子ども自身が自覚できていること、②権利基盤型アプローチで子どもの権利を考えることにより、子どもを客体でなく主体としてみられる大人たちがたくさんいること、③子どもに関わる施策等、社会づくりのために当事者である子どもの意見を聞くことを必要とするが、その仕組みが社会に多様にあること。これらを望ましい社会状況と考え、以下の事業を行った。

1）「こども若者の声をきいて行う街なか居場所づくり連携事業」（WAM 助成）

①街なかホッとスペース

内容：モール街 Any の 2 室を借り、こども若者を対象とし、6～1 月の日曜日 9：30～20：30（10 月より 18：30 終了）までフリースペースを設置　29 回実施

来場利用者：1216 人（10 代未満 148、10・20 代 490、30・40 代 340、50 代以上 238）

1）ワークショップ：ズンバ、点字、 3Ð プリンター、パーカッション、推し活団扇づくり、バルーンアート、ボイストレーニング、モルック、くじびきドローイング

2）若者持ち込み企画：読書会、一日店舗体験

3）市民持ち込み企画：オリキャラを描いてもらおう、鎌倉ファブラボ

4）街なかブカツ：第一学院ゲームサークル

5）こども若者の声をきく会：通信制高校、不登校経験者、定時制高校

6）ミニライブ、お菓子パーティ

7）アクセスジョブによるおしゃべり会、相談会

※ ブログ「街なかホッとスペース」で活動についての発信（44 回）をした。

② こども若者ダベリバ

内容：居場所をテーマに、アートやゲーム等を使った自己表現の場を設けるとともに、安心して自由に発言できる場としてダベリバを開いたが、若者たちが主体的に運営できるよう、わかもの NPO と企画会議を開きながら協働した。大人は当日オブザーバーとして参加。

対象者：こども・若者　　実人数：35 人　　延べ人数：42 名（うち実対象者 30 名）

1．学生プロジェクト：9/17(水)18:00～20:00　@The garage for startups

2．NPO 法人ビブレリブレ：10/19(日)13:30～15:00　@南部協働センター料理教室

3．FUNNILY　12/12(金)18：30～20:00　@はままちプラス

③　円卓会議

内容：講演会では部活動の歴史や教員の働き方改革、他の自治体の先進事例を踏まえ、浜松市の地域移行の方針と課題が示された。部活動の地域移行は学校だけでなく、保護者を含む地域全体で取り組む必要があると共有された。

円卓会議では自身の部活経験や地域クラブへの期待を話し合ったが、残念ながら若者の参加はなかった。部活の変化は未知であり、まだまだ市民、こども自身にも危機感が薄い。今後は地域全体で子どもを支える力がより求められている。

開催日：1 月 24 日　浜松駅前レンタルスペース SOU にて

全体テーマ：部活が変わる。地域が動く。

第一部　講演会　「部活動の地域展開はこどもを幸せにするか」

講師：大野木龍太郎さん

第二部　円卓会議

参加者　9 名

④　報告会・講演会

内容：こども若者の声をきいて行う街なか居場所づくり連携事業の報告を行った。事業を通して見えてきた課題として「こどもたちは自分の思いや意見を伝える体験をつめているのか？こども主体を大人が求めてもこどもたち自身にその認識がないのではないか？」等があがった。今後につなげていくためのテーマとして北欧の教育における民主主義を学ぶための講演会を行った。

開催日：2 月 28 日　クリエート浜松

第一部　報告

第二部　講演　「民主主義の根っこをはぐくむ北欧の教育」　講師　武田緑さん

参加者：20 名

⑤　ホッとスペース連携会

内容：街なかホッとスペースを運営する中で見えてきた課題を共有し、勉強会や意見交換をしながら子ども支援団体のネットワーク化をはかった。

開催日：8 回の連携会議（5/23 、6/27、8/2、9/9、10/10、11/5、12/14、1/25）は、主としてオンラインで開いたが、初回及び最終回は対面で交流と情報交換を主目的とした。

連携委員：

不登校支援ワンダーワンダー/浜松学生プロジェクト/あそばんび/NPO 法人ビブレリブレ/

ファブラボ浜松テイクスペース/のあん/子ども育ちレスキューネット/一社）蕃グレイス/元学生ＦＲＥＳＨ

2) 「多様な困難を抱える青少年の声をきいて行う居場所づくり支援活動」2024 年度ドコモ市民活動団体助成　（実施期間　2024 年 9 月～2025 年 8 月）

① 居場所に関わる意見表明の場「ダベリバ開催」

協働企画団体　（1）Hamamatsu Youth Voices　（2024 年度）2/2、11 名参加

（2）NPO 法人ビブレリブレ　（2024 年度）2/20、17 名参加

（3）ワンダーワンダー　5/11、18 名参加

② 居場所実態調査　2024 年度実施の公的施設 9 か所に加え、3 か所（クリエート浜松・こども館・北部公民館）に対し、管理形態、利用者向けの施設整備、プログラムやイベントの実施状況、利用者の様子、施設の役割・意義、施設職員の必要スキル等についてヒアリングをし、こども若者の居場所としての公共施設利用の環境を調査した。ダベリバでも公的施設に関心を寄せたこども若者はいたが、中高生の居場所という視点をもった施設運営者は 0 ではなかったが、ユースワークという視点はほぼなかった。こちらの問いで対象年齢を改めて意識された施設が多かった。

③ 円卓会議「浜松の施設をみんなの居場所にアップデート」

7/21 浜松市福祉交流センター　参加者 39 名（こども若者 10、支援者 19、議員 10）

1．講演会：能島裕介さん（尼崎市こども政策監）による尼崎市での施策紹介等

2．エヌポケットからの事業報告　ダベリバで出てきた意見や、特に児童館の環境について円卓会議における材料となるよう調査結果を報告した。

3．円卓会議「ホッと SPOT 円卓会議」参加者は対等な立場であるという考えで「子ども若者の居場所としての公的施設利用の可能性」をテーマに話し合った。

④ 活動基盤強化：人材育成しながらできる雇用環境づくり

スタッフ研修として自発的にオンラインの無料講座等を利用し、見聞を広げた。

3) 浜松市支援対象児童等見守りサポート事業による支援

児童虐待予防の目的で、対象児童の家庭に食品を毎月届けながら見守り社会とのつながりをつけておくもの。

受託団体　「NPO 法人しずおか・子ども家庭プラットフォーム」の協力団体として実施。

実数 6 家庭（対象児童 11 名）へ 60 回訪問

4）個別訪問型得意支援

①小学生対象　のべ 44 回 47 時間【静岡県教弘地域教育振興助成】

②中高生対象　のべ 233.5 回　246.5 時間【公益財団法人樫の芽会】

対象者：小 6 人、中 11 人、高 1 人

講師：7 人（スクールカウンセラー、元教員、ICT 教室主宰者、日本語教師）

３．組織の管理運営

（１）事務局

1）事務局会議：事務局に勤務する全スタッフによる事務局会議を、毎週金曜 10:00～11:00 で 45 回行った。各事業担当者から１週間の進捗報告と予定、事務局より事務連絡、組織運営のための相談・協議を行う。

2）拡大事務局会議：年 1 回、4 月に年間戦略会議を持ち、各事業の棚卸、課題の共有、今後の展望等について議論する場を持つのが恒例だが、本年度は 4/18 に三ケ日総合福祉センターにてリトリートを行った。

3）パートナーシップ構築宣言：取引先との共存共栄の取組や、「取引条件のしわ寄せ」防止を代表者の名前で宣言した。

（２）理事会

2025 年度は４回の理事会を開催し、事業運営、組織運営に関わる協議を行った。

6/14（土）13:00～14:30 理事 10 名（うち委任状 2 名）、監事 2 名、その他 1 名　計 13 名

1/13（火）17:00～18:00 理事８名、監事１名、計９名

2/19（木）18:00～19:00 理事 11 名、監事２名　計 13 名

3/27（金）18:30～20:30 理事９名、監事２名　計１１名

（３）総会

6/14（土）15:00～17:00　ウイズかじまち

参加者：正会員 23 名（うち委任状提出８名）（正会員総数 36）

（４）認定 NPO 法人の認定について

★認定有効期間の更新：令和７年（2025 年）８月５日から令和 12 年（2030 年）８月４日

2025 年度寄付　3,000 円以上の有効寄付者数 101 名